

第3節 生活支援・介護予防の提供体制の拡充

高齢者の生活を地域で支えていくためには、医療・介護のみならず、日常生活上の課題に対する生活支援や、健康づくりによる介護予防などが地域の中で提供されることが必要です。

これらの提供に当たっては、公的サービスに加えて、日常生活の場から比較的近い場所で、コミュニティやボランティア、NPOなどの地域に根ざした多様な主体による「互助」の力が不可欠であることから、高齢者が自立した生活を継続できる地域づくりを進め、生活支援・介護予防について一体的に取り組んでいきます。

なお、今般の制度改正により、現行の介護予防事業は、新たに創設された「介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」といいます。79 ページ参照）」の枠組みの中に移行していくこととなっており、また、生活支援の一部についても、この総合事業の中で、一体的に提供していく仕組みとなっています。

この節に記載した生活支援及び介護予防に関する取組を総合事業の中に位置付けていく過程においては、本市ですで行われている取組と十分に整合を取り、生活支援及び介護予防の提供体制のさらなる拡充を図っていきます。

1 生活支援の提供体制の充実

今後、単身世帯等の増加に伴い、日常生活において何らかの支援を必要とする高齢者の増加が見込まれます。また、社会から孤立し、生活行為や心身の健康維持ができなくなっている高齢者に対する見守りや安否確認のニーズも増加してくると考えられます。

こうした地域課題に対応するための生活支援を充実させるとともに、高齢者の生きがいづくりなど通じた社会参加の促進や高齢者が安心して暮らせる生活環境の整備、高齢者・家族の人権尊重及び権利保障に取り組んでいきます。

1 地域課題に対応するための生活支援の充実

高齢者が日常生活の中で困難さを感じる内容としては、「買物」、「散歩・外出」、「ゴミ出し」など、介護保険サービスではカバーしにくいものが増えると予想されることから、これらの多様な支援ニーズに対応するため、地域の中で、公的サービスに加えて、住民、ボランティア、民間企業等の多様な主体により高齢者の生活支援を行っていく体制を整えていきます。

また、地域における高齢者の見守りや安否確認の体制も充実させていきます。

(1) 在宅生活支援サービスの利用拡大

本市では、配食サービスやガス漏れ警報器等の支給などの在宅生活に関するサービス、また、地域サロンやメルシーキャブサービスなどの「生活の質」を高めるサービスなどを実施しています。（表 22）

高齢化の進展に伴い、高齢者のみの世帯や寝たきり又は認知症の高齢者を介護する世帯の数は、今後さらに増加していくことが見込まれます。そのため、介護保険サービスではカバーしきれない部分に対し、きめ細かく支援していく在宅生活支援サービスの向上に取り組み、サービス利用を拡大していきます。

■表 22 在宅生活支援サービス一覧

地域支援事業（任意事業）	その他の在宅生活支援事業
<ul style="list-style-type: none"> ・ 配食サービス ・ 紙おむつの支給 ・ シルバーハウジング生活援助員派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガス漏れ警報器・自動消火器・電磁調理器の支給 ・ 理髪・美容カットサービス ・ 寝具乾燥・消毒サービス ・ 介護手当金の支給 ・ 住宅改修助成 ・ 地域サロン ・ メルシーキャブサービス

（※サービスの内容については 70 ページを参照）

第6期計画における在宅生活支援事業の見込量は、次のとおりです。

■表 23 在宅生活支援事業の見込量

区 分		H25 年度 実績	H26 年度 見込み	H27 年度	H28 年度	H29 年度	
地域支援事業 （任意事業）	配食サービス	実利用者数（人）	882	919	957	995	1,035
		サービス利用量(回/年)	241,528	252,370	262,465	272,964	283,883
	紙おむつ実利用者数（人）	374	303	308	313	318	
その他の在宅生活支援事業	理容・美容	実利用者数（人）	156	158	160	162	164
		サービス利用量(回/年)	257	261	265	269	273
	寝具乾燥	実利用者数（人）	313	297	300	303	306
		サービス利用量(回/年)	997	947	957	967	977
	地域サロン整備数（箇所）	252	252	254	256	258	

(2) 「地域支え合いネットワーク」を含めた連携体制の構築

「地域支え合いネットワーク」(※)などを活用し、地域における生活支援の担い手と健康づくりの担い手とが相互の活動内容を共有し、地域の中で協働する仕組みを構築します。

※地域支え合いネットワーク：地域において、支援を必要とする人を把握し、その人のニーズに応じて適切なサービスをつなぐ仕組みとして「金沢市地域福祉計画 2013」に位置付けられたもの。

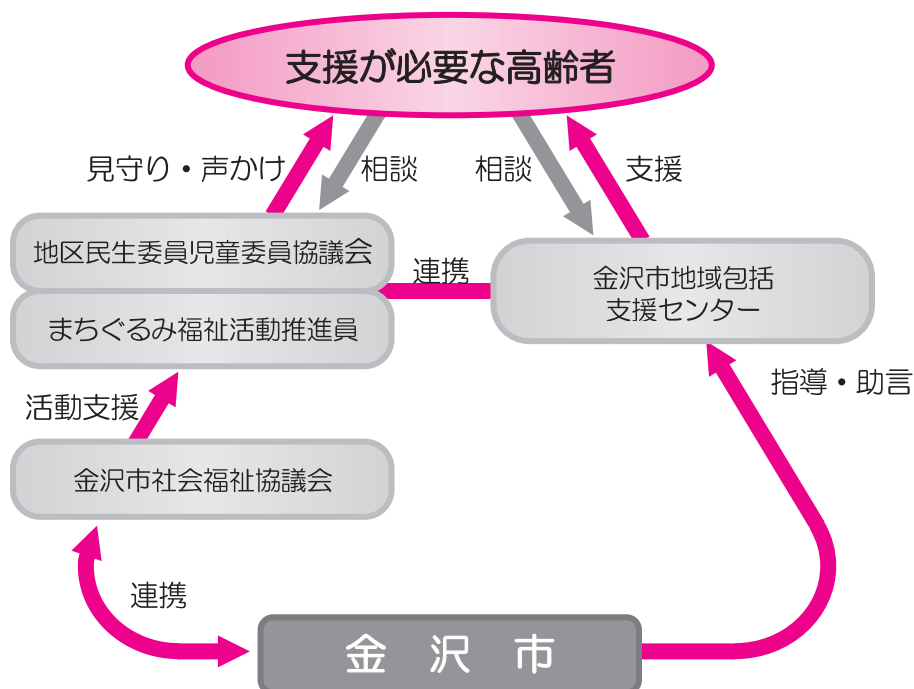
(3) 地域の見守り体制の充実

本市では、民生委員・児童委員と高齢者の見守り活動等に理解のある地域の方(まちぐるみ福祉活動推進員)で「まちぐるみ福祉活動推進チーム」を組織し、地域包括支援センター等と連携をとりながら「まちぐるみ福祉活動」として、要支援者の実態把握、高齢者宅の定期訪問や声かけ、福祉サービスの情報提供などの地域の見守りを行っています。(図14)

しかし、その担い手の確保や、急速な高齢化による見守り対象者の増加という課題が指摘されていることから、その解決に向けた取組等を実施し、地域の見守り体制の充実を図っていきます。

また、1人暮らしの高齢者等の安全・安心を確保するため、看護師や保健師等がコールセンターにおいて、24時間対応する高齢者の見守りサービスを開始していきます。

■図14 まちぐるみ福祉活動を支えるネットワーク



ア まちぐるみ福祉活動推進員に対する研修等の充実

まちぐるみ福祉活動推進員に対する研修及び指導・助言を充実させ、さらにきめ細やかな支援が提供できるよう、引き続き支援体制の充実を図っていきます。

イ 「まちぐるみ福祉活動」の担い手の確保

地域の元気な高齢者を対象として、地域住民同士のつながりや高齢者の見守り活動の重要性について研修を行うなど、「まちぐるみ福祉活動」の担い手確保に向けた取組を行っていきます。

ウ 見守り対象者の増加への対応

見守り対象となる高齢者の増加に対応するため、小学校区単位での地域ケア会議（91 ページ参照）の開催など、見守りに関する情報の共有、地域の団体や人材等の高齢者を支える社会資源の活用等について協議できる仕組みを構築し、見守り対象者の増加に対応していきます。

(4) 地域の自主活動の育成

現在、本市における地域福祉活動は、地域の民生委員児童委員協議会、町会・公民館・婦人会・老人会などの各種団体で構成されている地区社会福祉協議会が中心となり、地域住民全体が主体的に取り組んでいます。

今後、地域ニーズに応じた柔軟な生活支援サービスの担い手として、介護サービスを提供している社会福祉法人等に加え、地域に根ざした NPO やボランティア等の育成及び組織化を図っていきます。

(5) コミュニティビジネスの振興

買物支援をはじめとする少子高齢化に伴う地域課題をビジネスの手法で解決するコミュニティビジネスの起業から定着までを支援します。中でも、事業周知の協力や地域ケア会議等で出された住民ニーズについて事業者との情報共有に努め、収益性や継続性の向上を図っていきます。

2 高齢者の社会参加の促進

高齢者がいきいきと暮らすためには、地域の人と日常的なつながりを持ち、一人ひとりが必要とされ、役割と生きがいを持って暮らしていける環境を整えていくことが大切です。

そのため、関係団体と連携を図りながら、高齢者の多様な社会参加を促進していきます。

(1) 高齢者が気軽に集える「場」の充実

高齢者が日常生活の中で気軽に集える地域サロン等の「場」については、高齢者の閉じこもり防止や介護予防を促進するとともに、高齢者の生きがい作りの「場」ともなっています。

今後は、多様な高齢者のニーズに応えるため、必要に応じて内容の充実を図るとともに、趣味活動等の住民自身が運営する「通いの場」を増やしていくような取組を行っていきます。

(2) 多様な社会参加の促進

高齢者の社会参加を促進するため、関係団体や地域の施設などと連携を図りながら、老人クラブ、地域サロンなどの地域活動を支援するとともに、高齢者の就労やボランティア活動の場の提供など、社会参加の機会を広げる取組を推進していきます。

(表 24)

ア 高齢者の就労支援

高齢者の就労は経済上の必要性からという理由だけでなく、働くことが生きがいや介護予防にもつながります。

そのため、高齢者の就労を支援するため、公共職業紹介機関や金沢市シルバー人材センターと十分な連携を取るとともに、高齢者の就労に関する企業ニーズを把握し、高齢者就業の開拓を図る就労推進員を配置するなどの取組を行っていきます。

イ 生涯学習・スポーツ活動への参加促進

高齢者が、健康で生きがいをもって暮らしていけるよう、引き続き生涯学習やスポーツ活動への参加を促進していきます。

ウ 老人クラブの活動支援

スポーツや文化活動を通じて、多くの人とふれあい、交流する場として、老人クラブの存在が重要であると考えています。

そのため、スポーツ・文化活動推進の一環として老人クラブの諸活動を引き続き支援していきます。

エ ボランティア活動への参加の促進

団塊の世代をはじめとした高齢者は、ボランティア活動の重要な担い手として期待されています。

地域の高齢者が主体的なボランティアの提供者になることで、生きがいづくりや社会的孤立の防止、介護予防につながることから、引き続きボランティア活動への参加を促進していきます。

オ 世代間の交流の促進

金沢ウォークなどの各種生涯スポーツイベント等、各種イベントでの世代間交流のほか、地域サロンでも世代間交流活動を行っています。

高齢者の経験や技能などを若い世代に伝えていくことは大切なことであり、引き続き様々な場面での交流を促進していきます。

■表 24 社会参加・生涯学習の施設等

施設等	内容
金沢市シルバー人材センター (金沢市長土塀交流館内)	生きがいの充実や社会参加を希望する高齢者に、就労機会の提供を行っています。
パソコンサロン(千寿閣、ライブ1、金石中学校内、泉中学校内)	パソコン教室を開いており、パソコンを使いたい方や、上手になりたい方が気軽に利用できます。
いきいきギャラリー (横安江町商店街内)	高齢者や障害のある方が制作した作品などを展示・販売しています。
老人福祉センター等(千寿閣、万寿苑、松寿荘、鶴寿園、十一屋生きがい交流館)	陶芸、手工芸、絵画、書道、生花教室のほか、自主的にダンス、歌謡など多様な講座を開いています。
地域サロン (現在 62 地区 252 箇所で開催)	高齢者が住み慣れた地域で生きがいをもって生活できるように、公民館などを利用して会食会や手作り教室、健康教室などを開催しています。
金沢市高砂大学校・大学院 (中央公民館彦三館内)	高齢者の新しい知識の習得・仲間づくり・生きがいづくりを目指し、大学校では、幅広い分野の講座を設けており、大学院では、更に専門的に学べる歴史民俗・花樹園芸・文学美術・悠々健康の4科を設けています。
生涯スポーツ推進事業 (総合体育館等)	ストレッチや青竹ビクス、機能改善体操などのプログラムを開催しています。
ニュースポーツ・レクリエーション教室 (金沢市レクリエーション協会)	マレットゴルフやラージボール卓球、フォークダンスなどの軽スポーツ教室を開催しています。
地域の老人クラブ活動	地域において社会奉仕活動や教養活動(民謡、版画など)、スポーツ活動を行っています。
金沢ボランティア大学校 (中央公民館彦三館内)	ボランティアとして活躍できる人材を育成しています。
金沢ボランティアセンター (松ヶ枝福祉館内)	ボランティアに関する相談・情報提供・講座の開催などを行っています。